

## 三月の園藝

東京女子高等  
師範學校教授

有川ひさる

木も草も眠つた冬の帳は静かである、静かな帳がやおら揺らいで、幼子の微な動めきを見初めた時の母の喜び！此喜びは春の喜び！

『春が来た、春が来た』子供の唱歌を聞いても、ちつとしてゐられぬ心地になる。

小供には花も観せたいが、實も收らせたい、場所がなければ花壇を少々割いてなりと菜園をつくりたいと思ふ。此處で栽培の容易な、收量の多いしかも收獲のたのしみな、蔬菜の二三種を試みたい、勿論目的は他の大きな兒童とはちがひ、作物の名を教へるとか作り方を説明する爲でなく、唯その收獲や、運搬の勞苦と、喜びとを味はせたいにある。それで今月には春季に蒔く蔬菜・草花について述べたいと思ふ。

○蔬菜では

馬鈴薯

春植えて夏には收獲が出来る。甘藷とは

ちがひ、小供にでもらくに掘り採れる。房のやうに着いた薯を、手にした時の小供の喜びはどうであらう。日あたりさへ良ければ、土地の嫌いはあまりない。日あたりがわるいと、枝葉許り育つたり、病氣に罹つたりしやすい。寒氣に強く、且つちき收獲期になるのであるから、せいせい植付を急ぎたい。東京では三月初めに、春のもの、先きに植える。植付を遅れると收量が少くなる。

種薯は鶏卵大のは其儘に、大きいのは縦に二分する。堆肥があるとよいが、なければゴミ、土でもに灰や米糠を混ぜて、此處に三四寸の厚さに

土のかぶさるやうに植え付ける。

**枝豆** えだまめ なつた豆を摘ませて、株なり抜かせても

たのしい、殊に採つてから煮て饗應でもすると一層である。

普通四月に播くが、これでは夏休み中に収穫するやうになるから、ずつと遅れて六月頃に播いて、秋十三夜頃採れるやうにしたいと思ふ。

土地は瘠せて居つてもよくなるが、日あたりが悪かつたり、餘りこんで播いたりすると、木許り育つて實着きが乏しい。肥料は餘り要らぬ、肥えて居る地所なら、米糠と灰計りでもよい、一處に、三四粒宛點播きにする。

**落花生** らっかかせい 矢張り豆ではあるが、土中から收れるか

ら面白い。繭のやうな、きれいな可愛い粒が、

百も二百も鈴なりになつたまゝ採り得た時は、

大人でもうれしい。花咲爺のお伽話其儘の氣がす

る。それに一旦收獲したあとからでも、土を動か

かす度に幾つも幾つもコロコロ出て来る。『斯様

な畑に小供を放してやつたら、鳩のやうに』と

いつも思ふ。枝豆のやうにおやつにも適して居る。播くには外の殻を去り、四月頃に二三粒宛點播にする、矢張り肥料は餘り要らぬ。十月に

収穫出来る。

場所が充分あるなら、甘藷もよい、これは遊歩場の端のやうな、一體に瘠せた場所によく出来る。

種子を播いて小さな實生を間引たり、蟲を拾はせたり世話をさせたいと思ふなら、菜でも、大根でもよい、しかしこれ等は夏秋に播くものであるから其頃に述べたいと思ふ。

春の蔬菜に茄子とか瓜の類があるが是等は栽培が困難過ぎる。

草花では

東京以西では今月末、即ち彼岸前後が蒔き時であるが、東京では少し遅らし、四月に入つてからでよい。もつと寒い地方になると尙ほ遅加減にせ

ねばならぬ。どんな花を蒔くかといふに夏から秋にかけて咲いてゐる花は、凡て今頃即ち春に蒔けばよいのである。尤も同じく夏秋の花でも、菊とか芙蓉のやうに年々冬を越して株で殖える、所謂宿根草の物では種子を播くといふよりも、株分けにす可きで、時季は一體に暖地では、秋彼岸前後にして置く方が苗の育ちが良いし、寒地では春暖を待つ方が安全である。

花にも、松葉牡丹やパンジーのやうに小くて可愛らしいのもあれば、ダリアとかコスモスのやうに枝の大きく繁茂するものもあり、又向日葵のやうに伸びる一方のも亦朝顔やスキートピーのやうに蔓になつて支柱にすがらさねばならぬものもある。是等は夫れ夫れ作る場所とか目的によつて選ぶ可きで、花壇の縁植とか可愛い鉢物にならなくとも、人もりとしたものがよし、花壇の中に植えたり又枝を切つて挿す、即ち切花用になら花枝が相當に伸びて且つ數の多いものがよい。又花壇の後方

を植ゑつ、ぶしたり、垣根用になら丈の高いものを蔓の物でなければならぬ。それで幼稚園では、どちらかといふとせいゝ花期が永くて、枝の多い始終切つてつかはれるやうな、しかも栽培の容易なものを選びたい。

實生物では、コスモス、おしろい花、百日草、天人菊、姫ひまわり、トレニア等で鳳仙花は花期が短く、アスター(翠菊)は害虫が着き易く、鶏冠は切花に適せず何れも廣く作られて居る花ではあるが思はしくない。

株別物では、ダリア、シヤスタージェイ、くさきやうちくとう(おいらんさう)、むらさきつゆくさ、ストケシア、サルピヤ(多く挿木にする)等は夏、花の少い季節にもずつと咲き通して、切花にも好ましい。

又小供にめいめい鉢苑、丹精させたいと思ふなら朝顔は、四月に播くと、早や夏休み前から花を見られ、しかも双葉の時から可愛くて、花は割

合に大きいし、害虫と云つては殆んどなく、まことに小供にもつて來いの花であると思ふ。栽培法は後に説く。

菊も鉢作りによいが殆んど一年間も手数がかり、此間の手入がなかなか容易でなく、小供には骨が打れ過ぎる。

播方を略説すると

苗床にするなら、陽あたりの良い、風のあたらずぬ所が一般によい。四五寸の高さの床をつくり土をよく碎き、均らして、むらなく播き、うすく糞か、切藁をふりかけて置くとよい。乾燥に過ぎないやうに灌水に注意せねばならぬ。

苗床の場所がとれないなら、苺とか蜜柑の空箱でも菓子箱の古いのでも、摺鉢の傷物でも、當分土を容れて置かれるものなら何でも構はぬ。唯だ底にすき間があつて排水がきくやうにさへ注意して置けばよい。

下底の孔の處に貝殻でも、鉢片でも入れて、土ど

めにし、細く篩つた土を入れ、叮嚀に播き、灌水して芽の出るまでは陽の直射せぬやう、新聞紙でも被つて置くとよい。但し苗床の場合よりは灌水に一層注意をせぬと、折角出かけた苗を一朝にして枯らしてしまふ事が多い。

## ○新刊紹介 フレーベル傳

(H. W. フレーベル氏原著、岩村清四郎氏譯)

この書は著者が偉人フレーベルの經歷を世に紹介せんがために一般に得らるゝ材料は勿論、普通得難き材料まで漏なく蒐集して親切に丁寧にもた深き同情と熱誠とをもつて物せられたもので譯文も亦流暢、一讀してこの幼児教育界の一大偉人一大恩人の生涯をしのぶに餘りあるものであります。フレーベルの學說の宣傳せられてより既に百年、其の教育意見に關する諸學者の著述は極めて多いのですがフレーベル其人を紹介し其生活の事實を我等に示す『傳記』が未だ世に出なかつたのは寧ろ奇とする所でありませぬ。この著を得、又岩村氏の譯によつて我國にもこの偉人の傳記の紹介せられた事は誠に喜ばしい事でありませぬ、たしかに一讀の價值があると思ひます。(發行所、神戸頌榮保姆傳習所、賣捌所、東京警醒社、教文館、定價七十五錢)